

NADPZ NEWSLETTER

JULY - OCTOBER 2025



NATURAL AGRICULTURE DEVELOPMENT PROGRAM ZAMBIA



20 YEARS OF NATURAL AGRICULTURE: EMPOWERING FARMERS AND PROTECTING SEEDS

ザンビアにおける自然農法 20周年を祝って

20年という年月が、これほど早く過ぎ去ったとは信じがたいことです。

今年は、ザンビアの小規模女性農民たちと共に自然農法を推進してきた二十年の歩みを記念する大きな節目の年となりました。

この特別な機会を記念して、日本から35名の秀明メンバーをお迎えし、共にこの素晴らしい旅路を祝うことができたことを大変光栄に思います。

会場は感謝と喜びの空気に満ちていました。地元の農民やザンビアの若者たちは浄霊を受け、日本の来賓が用意したおいしい和食を味わい、太鼓の力強い響きに心を奪われました。秀明の若者たちとザンビアの農民が共に踊り、歌い合う光景は、まさに「ともに生きる」精神の象徴であり、距離を超えて私たちが一つにつながっていることを改めて思い出させてくれました。

文化と心のつながりの祝祭

この記念式典は、文化・感謝・そして一体感が融合した鮮やかな催しとなりました。ザンビアの豊かな伝統と温かいおもてなしを共有しつつ、日本や香港から訪れた秀明メンバー、特に遠くから旅をしてきた若者たちの情熱と献身を肌で感じる貴重な機会となりました。



未来への種

式典の中でも特に感動的だったのは、秀明の若者たちが農民たちに「種」を贈呈した瞬間でした。その種は単なる新しい農期の始まりを意味するものではなく、自然農法の心そのものでした。種は命の始まりであり、農民としての私たちの原点であり、未来への約束です。

農民たちの展示もまた、彼らの強さと忍耐の証でした。

干ばつや経済的困難に直面しながらも、大地を耕し、家族を養い続ける姿に、心からの敬意を覚えます。農業は彼らにとって単なる生業ではなく、まさに「生き方」なのです。このイベントは、現代社会で見落とされがちな小規模農民こそが地球の守り手であり、私たちの生存に欠かせない存在であることを改めて気づかせてくれました。



次世代への希望

記念祭のハイライトの一つは、ペンバ小学校を訪問したことでした。そこでは、農業に興味を持つ多くの子供たちと出会いました。彼らの姿は、「農業の未来は若者の関与にかかっている」という重要なメッセージを象徴していました。20年前にこの道を歩み始めた農民たちは今や高齢化しており、その志を受け継ぐのは若い世代の責任です。

しかし現代の農村の若者たちは、都市への憧れやグローバル文化の影響を受け、インフルエンサーや起業家を夢見る傾向があります。

農業の未来を守るためには、自然農法を若者にとって魅力的で意味あるものにしていく必要があります。

テクノロジーやSNSを活用し、自然農法の美しさ・意義・持続可能性を発信する「若き農業インフルエンサー」の登場が求められています。

これからの歩み

20年という節目を迎え、私たちは秀明インターナショナルの皆様の変わらぬご支援に心から感謝いたします。皆様の信頼と協力が、このプロジェクトを通じて人々の生活や地域社会、そして大地そのものを変える原動力となりました。

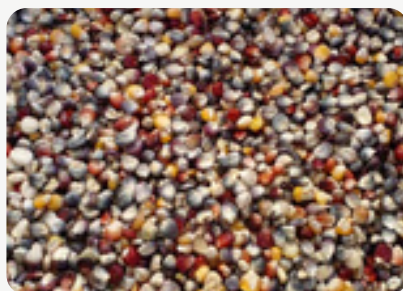
これからの新たな章では、より多くのザンビアの若者たちが自然農法の運動に加わり、農の喜びを再発見し、種を敬い、持続可能な未来への希望を育ていけるよう力を注いでいきます。

私たちは、次の20年に向けて、さらなる成長とつながり、そして共通の目的に向かう歩みを共に進めていきます。





種 — 私たちの原点であり、 未来である



自然農法の中心的な柱の一つは「種」です。この20年間、私たちは農民と緊密に協力し、種の採取と保存の方法を共に学んできました。その過程で、在来種がどれほど大切なものであるか—それが今の農業だけでなく、未来の農業にとってもいかに不可欠であるか—を気づかせてくれる、数えきれないほどの物語を共有してきました。

それらの種は、単なる生命の源ではなく、私たちの文化や歴史そのものを受け継ぐ「生きた物語」なのです。在来種は、曾祖父母の代から受け継がれ、今も生き続ける「生命の記憶」です。気候変動が進む中でも、在来種はその強さと適応力を示し続けています。

この20年間、私たちは数々の試練を乗り越えてきました。干ばつ、洪水、バッタの襲来、嵐などに見舞われても、自然農法を実践する農民たちは小さな畑を守り抜き、収穫を続けてきました。家族たちは毎年、在来種を大切に採取し、保管し、再び植えています。これらの種は、たとえ厳しい年であっても家族を養う糧となり、安心と希望をもたらしてくれるのです。

新しい農期を迎え、雨が戻るたびに、私たちは在来種を再び植えます。それは、この物語を未来へとつなげていくためです。今年は、ムンブワ地域などから新たな在来種の収集も進めています。私たちの目標は、地域の「シードバンク」を設立することです。それは、自然農法の遺産を守り続ける「生きた図書館」として、未来の世代に種の物語を伝える場となるでしょう。

これからの歩みの中で、私たちはこのメッセージをさらに深め、次世代の農民たちを鼓舞していきます。在来種のシードバンクを設立することで、誰もが訪れ、学び、種とともに生きる喜びを共有できる場所を築いていきたいと願っています。

20年以上前に始まったこの物語が、これからも長く受け継がれていくように。

豊かな農期を迎えられること、そして「種」という共通の礎がこれからも育まれていくことを心より願っています。